

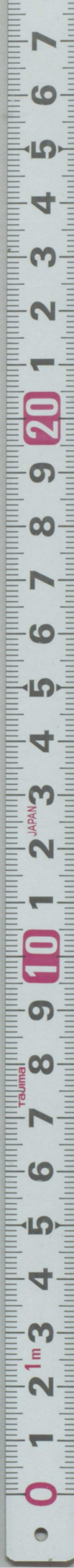
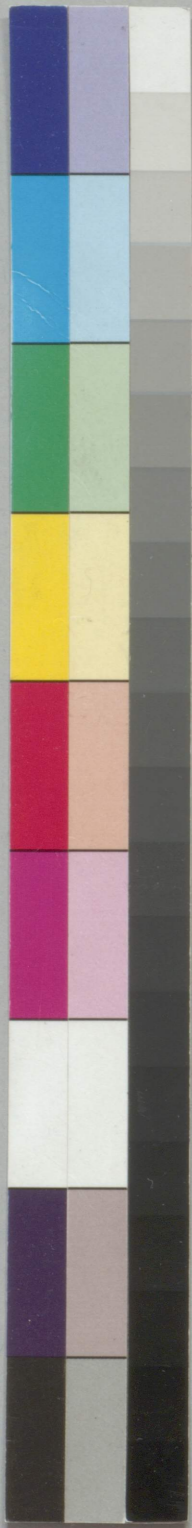
日本労働運動略史

(歐洲大戦後ヨリ昭和七年ノ「フアツシヨ」運動化迄)

國政研究會

昭和七年七月

群馬県立図書館
中島文庫



6534

注意事項

- 資料は大切に扱きましょう。
- 資料は転貸借はお断りします。
- 15日間の期限に必ず返して下さい。
- 資料を汚損または紛失した時は同一の資料又は相当代価を弁償していただきます。

群馬県立図書館
前橋市日吉町一丁目14-8
電話 (0272) 3008 番

日本勞働運動略史

(歐洲大戰後依昭和七年のフランス運動
化す)

七、七、五
杉山

日本勞働運動略史目次

一 勞働運動，發生

一 勞働組合，勃興

一 勞働運動，思想的背景

一 大戰後，勞働組合

一 政治的進出，無產政黨，關係

一 最近，勞働運動，無產政黨

一 勞働組合，勞働爭議

日本勞働運動略史

一 勞働運動の發生

勞働運動ハ産業革命ト附隨シテ起ル。我國ノ産業革命ハ幕末ヨリ明治初年ニカケテ種々ナル機械ヲ輸入シ工場生産制度設置セラレ所謂手工業ノ範圍次第ニ縮少頗廢シタル端ヲ發ス。日清日露兩戰役ノ際ヨリ各種産業躍進的發展ヲ見ルニ至ッテ完成ノ域ニ達ス。然レ乍ラ勞働運動ハ未ダ幼稚ニシテ明治十六年馬車鐵道ニ反對シタル東京市人力車夫ノ團體車界黨明治二十年代ニ社會主義我思想紹介サレタル結果漸ク組織的ニ發達シタル勞働組合ガ明治三十年ニ勞働組合期成會ヲ設立シ宣傳ヲ唯一ノ機關トシテ鉄工印刷工鐵道従業員ノ組合組織ヲ發達ナル活動ト此ニ伴フ勞働爭議頻發ス。此外無組織ナル勞働者ガ盲動シタルトアリ政府ハ明治三十三年四月治安警察法ヲ制定シテ

取締ヲ嚴シタル等ニトアルモ、當時モハ一時的若クハ局部的ノモノニシテ近代
ノ組織的、永久的勞働運動ノ開始サレタルハ大正三年八月ノ世見大戦勅
發後ニトニ屬ス。期クノ如ク近代勞働運動ノ~~發生~~タリシハ我國産業
ハ女子、少年勞働者ヲ主体トシテ発達シ一被^レ男工勞働者ヲ主体トセル
モノハ大正五年ヨリ八年ニ掛テ未曾有ノ好況ニ惠マレタル我國産業ノ
發達ニ伴フテ男工ヲ始メ各部階級ノ勞働者進出シ資本主對勞働
者、今野明瞭トナリテ利害關係相對立シ一方社會ヲ席捲シタル「デモク
ラシー」新思想勞働者ノ權トナリ大正八年ノ「ワシントン」ニ南催サレタル
第一回國際勞働會議ニ刺激サレテ勞働者ハ自己ノ地位ヲ理解シ組
織化ノ必要ヲ認ムルコトヨリ勞働運動ハ振強ク社會ニ植付ケラレ勞働
組合簇出ノ秋勢ヲ展開スルニ至ル

一、勞働組合の勃興

世界大戦ト共ニ發達シタル勞働運動モ當時ハ組合トシテ見ル可キモノソナク
當時活動ノ中バトナレルモノハ友友會ト信友會ノ二團體ノミナリキ
友友會ハ其後、日本勞働總同盟ノ前身ニシテ大正元年八月一日鈴木
文治氏東京ニ於テ勞働者十四名ヲ糾合シテ組織シタル左國の勞働組合
ナリ。該組合ハ明治時代ノ勞働運動ノ失敗ニ鑑ミ、勞働争議ノ如キ
闘争手段ニ出ズルコトヲ好メテ慎ミ、^社政會政策的立場ニアル厚者、財界
ノ進歩的分子ノ後援ヲ俟テ穩健着實ナル協調主義ヲ採リタル爲ニ
創立六周年目ニハ會員ニ萬ヲ算スルニ至ル。信友會ハ明治四十年ニ
組織セラルル歐文植字工組合歐友會ノ後身ニテ大正五年ニ不振ノ状
態カラ復活スル爲メニ改名シテ進出シタルモノナリ。此外前記ニ團體ニハ及
バザルガ少数ノ團體存在セリ。

是等ノ勞働運動ノ理論的根據ト見ララル社會主義思想ハ既ニ明治三十年代以來紹介サレタルモノニテ明治三十四年五月社會民主黨明治三十九年二月日本社會黨ハ此ヲ基幹トシテ組織サレタルガ何レモ結社ノ解散ヲ命ゼラレ明治四十三年ノ幸徳一水ノ事件等禍ヲナシテ社會主義思想ハ實際ノ勞働運動ニ現ハルニト能ハザリシガ歐州大戰後ハ一切ノ壓迫ヲ排シ擡頭シ社會主義思想ハ結社組合トシテ具體化スルニ至レルモノナリ現ニ信友會理論根據ハ無政府「サンゲカリス」ナリナリ

大正年間ノ勞働組合團體數ハ尤ノ如シ

大正元年	五	大正五年	一三
〃二年	六	〃六年	一四
〃三年	六	〃七年	一一
〃四年	四	〃八年	七一

大正九年

六六

大正十年

七一

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "國政研究會" and "大正十年".

一 勞働運動、思想的背景

大戦後、勞働運動、從來、如ク單ニ組合ヲ作り團體ノ力ニテ自己ノ地位ヲ確保スルト言フ段身ノ態度ヲ捨テ、大衆ニ呼ビ掛ケルタメニ夫々背景トスル思想的傾向ヲ明瞭ニシ積極的ニ地盤ノ開拓ト社會上ノ地位確保ニ向ツテ進出セリ。友愛會ハ社會民主主義ニ立脚セルトヲ明クニシ大正八年度大會ニ其ノ主義ニ基ク宣言、主張ヲ公ニセリ。然ルニ此、穩健ナル主張ハ社會ノ趨勢ニ推サレ日本勞働總同盟組織ナルニ至ルヤ中心思想ハ一變ニ大正九年五月メーデーノ大會上野公園ニ開催サレ、十名ノ會員會合ニタル際ニ「モットー」司會者ヨリ共產黨ノ宣言「萬國、勞働者結合セヨ、標語ヲ拏ケ純然タル革命的「サンゲカリスム」ノ主張トナル

信友會ハ發生、源ニ於テ左傾的分子多カリシガ豫テ大杉榮一派、無政府主義ト相通ジ、チカ爲シ、日本勞働總同盟ニ合ニタル時ニ真先ニ「サンゲカリスム」

ヲ主張セルモナリ。何レモ各務働團體ハ日本務働總同盟ニ合流セル結果
務働運動ノ思想ハ「サンゲカリスム」左盛時代ノ觀ヲ呈ス
斯クテ務働組合ノ集中全國的統一ノ氣運ニアリシ。務働團體ハ大正十二年
ノ大震災ヲ一転機トシテ思想的ニモ亦實際運動上ニモ大変革ニ趨ハレバ
ラザル状態ニ至テ至ル。即チ其ノ主ナル原因ハ務働農「ロイヤ」ガ共產主義
ノ思想ヲ宣傳シタルコトニ依ルモノニテ大正十年ノ大會ニハ既ニ「サンゲカリスム」
反對ノ決議ガ可決サレ居リ。國際務働會議否認務農「ロイヤ」承諾等ノ向題
總同盟ハニ撞頭セルコトナリ。更ニ一方ニ大正九年十月我國各派社會主義者
ノ大同團結行ハレトシテ結社禁止サレタルガ其ノ内ニハ總同盟系ノモノモアリ
結社不可能ナルヤニ決ニ分レハ無政府主義トナリ。他ハ「ホルニエヴィズム」ノ共產
主義實際運動ニ走り。此ノ頃ヨリ「サンゲカリスム」ノ主張ハ影漸ク淡スレ行
ク秋トナリシトコロニ、大震災ノ爲メ無政府主義者ノ中ハ人物ニテ務働者團

体間ニ勢力有シ大杉 榮氏屠ラレ「サンゲカリスム」系統ノ幹部級ニ死シタル
モノモアリ。流石ノ革命的「サンゲカリスム」モ致命傷ヲ受ケタルナリ。大正十三年ニ
月ノ全國大會ニ日本労働同盟ハ方向転換ノ宣言ヲ發表セリ。其ノ結果
ハ分裂ナリ。總同盟ト評議會ト對立ナリ。評議會ノ思想的背景ハ山
川均氏一派ノ指導スル革命的「マルクシズム」ナルトハ論ヲ俟タザルトコロナ
リ。此處ニ労働團體ノ分解作用ノ端ヲ發シ思想的背景ハ多岐多様ノ
混乱状態ニ陥リ收拾スベカラザルノ有様トナル。更ニ一転シテ最近ノ深刻ナル世界
不況ノ結果我國ノ思想ハ左傾ヨリモ右傾ニヨリ多ク進ミ昭和六年中頃ヨリ「
「フアツシヨ」運動ノ歴カヨリテ労働運動ノ内ニモ國家社會主義ノ主張徐
々ニ表ハル、ニ至ル。即チ之レヲ要約スルニ労働團體ノ思想的背景ハ社會
民主主義「サンゲカリスム」共產派、國家社會主義等ナリト言フヲ得ルガ所謂
急激ナル革命ヲ容ホスル左傾派（~~左翼~~）極左傾派ト穩健ナル右傾派

(右翼團體)トノ代名詞ヲ以テ呼バル、事情ハ斯クノ如クニテ生ズルモノナリ。
最近ハ國家社會主義勢ヲ得テ共産主義ノ革命的運動ハ終熄
セズ。相當ニ個々人ノ思想中ヲ蝕ミテ危有様ナリ。

一 大戦後、労働組合

労働組合運動は、大戦後劃期的な發展ヲナシタルガ、友友會ハ^{依然}以前トシテ單一基礎ノ上ニ立テ、全國的ノ組織ニシテ全國ヲ關シ、横濱、及關東ノ三區ニ分テ、各區ニ出張所ヲ設ケ、横濱ニ海員部、設置アリ、其後改稱シテ大日本労働總同盟友友會ト名ヅケ、職業別、又産業別、全國加盟團體、中央聯合機關トシ、理事會議制、下ニ經營統制ヲ行フトシ、續イテ海員部ト鑛山部ハ獨立シ、大正十年五月全國海員ニ十三團體ハ、合シテ日本海員組合トナリ、鑛山部ハ大正九年十月全國坑夫組合、大日本鑛山同盟會ヲ糾合シ、全日本鑛夫總聯合會トナリ、信友會ハ、歐文植字工ノ團體ガ主体ナリ、出版印刷^印従業員全部、東京新聞印刷工、正進會ト、提携ナルヤ有カ、ナル労働組合トシ、十三年三月ニ、官業労働總同盟組織サレ、同年八月、日本労働聯盟、創立ヲ見、最後ニ東京ヲ中心トセル労働組合同盟會大

改本部ヲ置ク関西労働組合聯合會生レ即チ労働組合各地ニ合同
聯合會ヲ集ル主義ヲ採ルノ現象ヲ呈ス

労働組合同盟會ハ友愛會 信友會 正進會 大正八年十月築地海軍造
兵廠機工ノ組織工人工會 大正八年九月創立 東京市電氣局車
掌團體 日本交通労働組合 大正九年一月東京砲兵工廠 東京瓦斯
會社 鐵道省職工ノ創立ニテハ凡労働會 大正九年二月創立 小澤牧教員
俸給生活者組合 塔明會 博文館印刷工^同進會 復身大進會 東京
砲兵工廠 民間職工組合 工友會等ノ九團體ノ提携ニヨルモノニテ一固メ
テ^レノ示威ヲ機縁トスルモノナリ

関西組合聯合會ハ友愛會 大友聯合會 大友砲兵工廠職工組合 大正
八年十一月創立 向上會 大正九年一月 大友印刷工革新同志會 大正
八年八月 大友印刷工組合 住友伸銅工所職工組合 大正八年十二月

設立伸銅工組合新進會。大正九年三月創立大阪電燈會社職工ヲ始メ
市内外電燈及電車従業員組合、電業員組合、大阪仲仕入天務働組合
大塚美術友禪工組合、大正九年二月純洋服工組合、洋服裁縫組合同志
會、商業使用人組合新生會、大阪市外務働誠友會（其後自然消滅）
車夫聯盟、關西鐵工組合、職工組合期成同志會、後身大阪鐵工組合、十五
團體結合ナリ。此二大組合、當時中央ニ於テ權威アル統制機關ヲ有セス
各自獨立ニテ活動セリ。

務働組合、思想的背景ニ付キ前項ニ於テ略述シタルカ、是等諸團體ハ日
本務働總同盟、務働組合同盟會、關西務働組合同盟會（關西務
働聯合會ヨリ大阪鐵工組合脱退シテ大正十年四月設立セルモノ）、三團體
ノ何レカニ包括セ居ルモノニテ、思想的ニ日本務働總同盟ハ社會民主主義
ヲ以テ、東西務働組合同盟會ハ「サンゲカリスム」ヲ理論的基礎トセルモノナリ。

然ルニ當時ハ未ダ明確ナル政治的意識ナク、總同盟系ニモ議會運動國
際労働會議ヲ否認スルモアリ、同盟會ノ組合員中モ一步「サゲカリスム」ヨリ
進ミテ共產主義ヲ把持スルモノ等アリ、斯クテ財界ノ不況、俾縮會議、結
果ヨリ生ズル労働不安、失業問題等ヨリ、労働團體ハ困難ナル立場ニ陥リ茲ニ
上記對立ニ團體ハ共同戦線ヲ張ルニ必要ヲ感シテ、其レが大正十一年ニ全國
労働組合統一運動ノ形トナシテ現ハル、勿論、統一運動ニモ根本的ノ難関
ハ存在セリ、總同盟ハ第一合同體ノ形式ヲ主張スルニ對シテ、東西同盟會側
ハ加盟團體ノ完全ナル自主權ヲ認メ居ル故ニ若シ統一運動ヲ具体化セ
ントモ、總同盟側ハ從來ノ第一合同ノ主張ヲ捨テ解体ノ形式ヲ採ラザルヲ得
ズ、總同盟側ノ認メ得ザル重大問題ナリ、然レトモ東京ニ於ケル總同盟ト同
盟側トノ交渉ハ案外手易ニ進行シ

労働組合共通ノ意思表示

二 勞働組合組織の促進

三 勞働組合國際的聯絡

ヲ目的トスル規約草案セシ。愈々大正十一年九月大阪市天王寺公會堂ニ於テ日本
勞働組合總聯合會創立大會開催セラレ。參加團體ハ全國ノ勞働組合ヲ殆ド全
部網羅シ其ノ數六十團體代表者百六名。其他曉民會新人會東京無
產者、前衛社抹殺團、思想團體人モ加ハリ、全國ノ勞働運動ノ全勢力
一堂ニ會スル、如キ華々モナリシガ愈々審議ニ入ルヤ根本的ニ意見ノ相異、
此地方合權的自由聯合主義ト中央集權的單一合同主義トノ主張ハ相容
レズ總同盟系對反總同盟系ノ議論ニ一致ヲ見ス果テハ官權ノ壓迫ニヨリ實
ヲ結ハズニ解散ノ憂目ヲ見タリ、全國統一化ノ實現セザリシトハ我國勞働
運動史上ニ空具ニ遺憾千萬ナルトナリキ、此ノ後ニ起リタル問題ハ共產派ノ擡
頭、總同盟ノ方向轉換、思想團體ト總同盟トノ絶縁及勞働運動組合ノ

解體續出紛糾ノミナリ、大改ニ於ケル全國勞働組合總聯合大會、決裂ノ總同盟派ト反總同盟派ト、對立トナリ、加フルニ關東大震災アリ、勞働組合間ニ政治的覺醒ト言フ自然的發生狀態多、意識的計畫的、發展時代ガ到来シタル爲メ、勞働組合ノ多數ニ離合集散行ハ始ム此レハ内部的ニ「ガジカリス山」ノ没落ト共產派、擡頭、外部的ニ參政權ノ擴張ト海外勞働運動ノ堅實ナル發展ト言フトモ影響ヲミタルト明瞭ナリ。

即チ向上會ヨリハ會長ナルハ水信一氏ノ獨立シテ純向上會ヲ大正十年十月創立シ向上會ハ官業勞働總同盟ヲ組織シテ日本勞働總同盟ト提攜セリ。關西勞働組合同盟ハ大正十二年十月震災後解散シテ其一部ハ大改鉄工組合純向上會等其他ニ三團體ヲ誌シ日本勞働組合聯合ヲ組織ス。東京勞働組合同盟會ニ於テモ總同盟系統ノモ脱退シ、鉄工組合モ獨立シテ機械勞働組合聯合會ヲ作リタル爲メ、殘留組ハ信友會ト正進會ノ二團體トナリ。

此文大正十三年五月聯合ニテ印刷工聯合會トナル。大正十三年三月ニハ海軍労働組合聯盟組織サル。大正十四年末ノ組合數ハ四五七組合員數ニ五四、二六二人ナリ。此時ニテハ日本労働總同盟ハ大正元年以來ノ順調ナル發展ヲ繼續シテテラ一激、趨勢ハ如何トモナシ難ク漸ク分裂、微起シ、其ノ主ル原因ハ日本労働總同盟ノ関東同盟ハ関東ニ於ケル反總同盟系ノ勢ヲ阻止スル爲メニ関東機械工組合、東京、東部、合同労働組合、関東印刷労働組合ヲ加盟團體トセリ。此ノ新加盟團體ハ共產主義ノ思想的背景ヲ有スル左翼派ニシテ總同盟ノ穩健ナル思想ト相容ザルモノアリ。右翼派ノ松岡駒吉一派ハ加盟團體ノ反對意見ヲ有シ幹部間ニ反目生ズ。大正十四年總同盟ノ大會神戶ニ開催サルマ、大阪神戶、京都ノ左翼急進派ハ幹部ノ不信任ヲ説ヘ鈴木會長、塚本中央委員ハ左翼派排撃ヲ以テ其ニ酬ユル等ノ下アリ。遂ニ関東、関西、同盟會ハ左翼幹部ノ除名ヲ要求シ被除名派ハ此ニ對抗シテ関東地方評議會組織シ

内部より總同盟、廓清運動ヲ起シ終ニ離脱シテ組合ニ十六團體ヲ糾合シ
日本勞働組合評議會ヲ十四年九月設立セリ。此ノ評議會ハ共產派勞働組
合ノ先驅ニシテ、ガシモ大ナリシ總同盟モ此ノ爲メニ勢力ヲ失墜セリ。
分解運動ハ以上ノ如キ状態ニテ停止ス。一度破裂セル流ハ、疑河ノ勢ニ進メリ
併シ乍ラ離合集散岸ナキ理論闘争ヲ此レ事トスル。勞働團體モ自己ノ地位ヲ獲
ル爲メニ聯合團體ノ形式ヲトル傾ニ進展シテ有リタリ
日本勞働組合聯合會ハ関西ニ於ケル反總同盟系ノ勢力ナリシニ内部ナル無政府
主義派ト勞働組合主義派トノ對立抗争ニテ大正十四年四月同系ニ團體ニ分
裂セルガ、其ノ右翼派ハ日本勞働組合總聯合會ヲ組織シ、全國中央機關設置
サレ、總同盟及評議會ト共ニ勞働運動上ノ三大機關トナル。東京市雇從
業員自治會ハ日本交通總聯盟ニ屬セン人々ノ組織シタルモノニテ、單獨團體ナリ
ニシテ次第ニ勢力ヲ得、市雇以外ノ交通業、勞働者モ加入シテ日本交通勞働

總同盟トナリ、左翼團體トシテ巩固ナル發展ヲナス又此レテ勞働運動ノ上
層ニ現レザリシ農民組合從來ノ穩健ナル階級的農民運動ヨリ脱却シ工業
勞働者組合運動ノ経験者ヲ幹部ニ引キ入レ、大正十四年頃ニ意外ナル急進ヲ
ナシ、日本農民組合トシテ全國的ニ結束シ、勞働運動史ニ大役目ヲ演ズ可ク
登場セリ、當時會員既ニ六万四千ニ達シ居レリ。
此、外産業別組合トシテハ、日本製陶勞働同盟、武相勞働同盟、在日本朝鮮
勞働總同盟、日本司厨同盟、日本勞働組合聯盟、大阪勞働組合聯盟等ヲ
數フルトテ得、無政府「サンデカリスム」系ノ勞働組合モ、大正十五年九月聯合シテ
全國勞働組合自由聯合會ヲ作り、共產主義ニ對抗シテ革命主義勞働
運動ヲナス、全國的中央機關トナル、大正十五年未シテ、大觀、友如ク聯合團體
結成時代ナリキ。

政治的進出ト無産政黨トノ關係

勞働運動諸團體ハ引續ク財界不況ト資本家側ノ壓迫・治安警察法及過激社會運動取締法律等ノ政府ノ壓力ニ對抗スル爲メ豫テヨリ純然タル經濟行爲ノミニテハ形勢ノ不利ナルヲ察シ政治的進出ノ準備ヲ整ヘ居タリ。偶々大正十五年三月普通選挙法制定カレバ、非常ナル熱ヲ持ツテ無産政黨ノ樹立ニ関シテ勞働者團體間ニシテ異ナル主義方針發生ス。一ツ全國的單一政黨主義他ハ他地方的政黨結成主義ナリ目的トスル所ハ一ナルモ無産政黨發生ノ経路ニ於テ方同ク異ニシタルモノナリ。

地方的無産政黨主義標榜ノ中心ハ日本勞働總同盟ト海軍勞働組合聯盟ナリ。總同盟ノ政治部ハ無産階級地方的参政運動ノ組合ヲ發達上有利ニシテ無産階級政治運動ノ訓練ナリト稱シ地方政黨主義ヲ宣傳シタル爲メ大正十四年一月ヨリ三月迄、市町村會選挙ニハ總同盟側意思地方ニ徹底シ同年二月既ニ

足尾土憲公民黨 胃九州民憲黨 七月十葉民政黨 又關西民政黨等生
レ。務働運動團體、右翼系、一部ハ政黨的ニ進出セリ。

併レ乍ラ一方ニ於テハ全國單一無產政黨ノ主張モ務働團體間、熱望ナリキ。

其ノ單位ハ務働組合ヲ以テスルニ有ルモノナリ、其故大正十四年二月日本務働總同

盟日本農民組合 官業務働總同盟ニ於テ、全國務働組合協議會ヲ創立シ、政黨組織、國際務働會議

及務働法制ニ對スル態度ヲ決定セトセル時、主催者側、自論ニタルモノハ全國

單一政黨ナリ、此ノ企ハ總同盟カハ地方的無產政黨ヲ恣ニ乍ラ理論上單一

政黨主義ニ承認ヲ與ヘタル曖昧ナル態度、爲メ失敗ニ終ル次イテ同年六月

日本農民組合ハ主催者トナリ、全國ニテ務働組合及無產者團體ニ對シ

全國單一無產政黨組織ヲ提案シ、無產政黨組織準備協議會ヲ同年

八月大阪中之嶋公會堂ニ開催ス。参加セルモノ全國主要務働組合十六團體其

代表者五十五名政治研究會 水平社 水平社青年同盟、代表者ナリ、翌九月廿四

綱領規約調査委員會用會ノ運ビトテナリタルガ單一無產政黨ノ機運ハ未ダ
孰セス。内部ニ對立的抗争生ジタリ其ノ對立ノ思想的背景ハ地方的無產政黨ヲ
怒スル右翼社會民主主義ト共產主義若シクハ「ウルトラ」共產主義トが相互ニ
自己ノ目標ニ就テノ主義主張ヲ讓ラザリシヨレ。

政治研究會ニ就テハ一言セザルベカラズ 政治研究會ハ大正十二年十二月東京ニ組織サ
レタル政治問題研究會ヲ十三年六月改名シタルモノナリ。

最初ハ單ニ政治問題ノ研究ナリシガ 無產政黨樹立ノ機運熟スルニ及ビ具體的運
動ニ入ルト共ニ名實共ニ改革セラレ此ノ政治研究ニ對スル勞働者組合ノ態度ハ區々
ナリキ。總同盟ノ如ク中央委員會ニ於テ所屬組合員ノ政治研究會加入阻止ノ
決議ヲナセリ。少クトモ加入ハ躊躇スルモノ多カリナリ。然ルニ大正十四年五月前項
ニ述ベシ如ク總同盟分裂ニテ左傾ノ日本勞働組合評議會生ルマ評議會
ハ積極的ニ政治研究會ニ接近シ全國學生社會科學聯合會加入セリ

社會科學聯合會「マルクス主義」ヲ把握スル全國的團體ニテ尤傾的尖銳分子ナリ
斯クテ他ニ加入スルモノ有リ。政治研究會、組織擴張ヲ其ノ内都モニ大潮流
生ス。評議會、社會科學聯合會、共產主義思想ノ一團ニテ政治研究會
創立者及中央委員ハ自由主義思想、立場ヲ繼續セル爲メナリ。斯ク複雑な
關係ヨリ上述ノ日本農民組合主唱、無產政黨準備委員成立シタル爲メ
準備委員會ハ混乱シ尤翼派ノ勢力次第ニ伸ビトシ秋勢右翼ニ不利トナリ
總同盟、東京市電自治會ハ十一月準備委員會ヲ脱退セリ。主唱者日本農
民組合、抗争ノ疾悪ナル鑑ニ參加團體ニ互讓ノ必要ヲカ説シテ二回綱領規約
調査委員會時ニ評議會政治研究會等ノ尤翼派ハ主張ヲ或ル程度ニテ
撤回シタルヲ。新政黨ノ綱領規約ハ愈々決定シ大正十四年十一月一日我國最
初、全國的單一無產政黨誕生セトシ創立大會ヲ東京神田青年會館ニ
開ク。參加團體三十五、代表者六十余名ニテ政黨役員官言、綱領規約

又ニ總同盟評議會對スル決議ヲ決定シ農民勞働黨ヲ樹立シテ散會セ
リ。斯ク難産ノ凶ニ生レル無産政黨ハ結黨ニ後僅ニ世分ニテ禁止命令ヲ
政府ヨリ傳達セラレリ。無産政黨及ヒ支持スル勞働運動團體ハ斷産ヨリ
転落セルヲ如ク驚愕セリ。

政府が結黨禁止ヲ命ジタルノ主ナル理由ハ

- 一 外部ニ發表セル行動綱領以外ニ原則綱領ノ存在セルコト
- 一 農民勞働黨ノ結成ハ我國體ト相容レサル共產主義ノ實行ヲ企圖
スルモノナルコト明瞭ナリ。

- 一 勞働組合ノ團體中人ハ女子及ビ未成年者ニモ政黨ニ加入セシムルコトナリ
治安警察法ニ違反ス

等ナリガ政府ノ處置モ當時ニ於テ止ムヲ得ガリシモノト思ハル。若シ無産政黨ガ
總同盟ノ主張スル如キ方向ヲ進マバ政府ノ壓迫モ少ナカリシラン。

政府方針在ク九翼系ノ排除ニ有シト明瞭トナリニ爲メ、大正十五年二月
日本農民組合ト官業勞働總同盟ゾオニ固メ無産政黨結黨ヲ協議スルニ
當テ政治研究會評議會無産青年同盟、水平社青年同盟、加入拒絶ヲ
決議シ、三月九日大坂ニテ勞働農民黨ヲ組織シ組織單位ニ團體加盟ヲ認メ
ズ個人ヲ組織單位トセリ、然ルニ九翼團體ハ門戸閉鎖セ居ルニ對シ極力運動
ヲ開始シ新黨創設半歲ニシテ門戸開放ノ主張黨内ニ勝ヲ占メ充分ナル資格
審査シ九翼系個人ノ入黨ヲ希望トナリ、更ニ一転シテ評議會其他ノ九翼團
體員ノ入黨ヲ當分保留スルトニシタルモ一度開放シタル勢ハ如何トモナシ難ク政黨
支部ニハ九翼團體ノ加入スル者多ク中央勢カト分離シテ地方支部ハ變則勞
展ヲナス

茲ニ於テ總同盟ハ十五年十月下旬中央委員會ニ於テ勞働農民黨ノ脱黨ヲ
決議シ勞働組合總聯合、東京市廳自治會、日本司厨同盟ヲ代表スル

九委員又總同盟代表脱退セリ

此レガ爲メ顧問タル安部磯雄、賀川豊彦、書記長三輪壽壯、三氏責ヲ負フテ辞職ス。右翼團體、支持ヲ失ヒタル勞働農民黨ハ、日本農民組合ヲ唯一ノ支持團體トシ、大正十九年十月大山郁夫氏ヲ中央執行委員長ニ推シ、由未九翼團體トシテ更生スルニ至ル。此レガ昭和三年ノ共產黨換替、際ニ解散シ命セラル、基礎トナリタルナリ。

總同盟ハ勞働農民黨脱退後政治的ニ活躍スル政黨ヲ失ヒタル譯ナルガ政治研究會ヨリ分離タル右翼ニ、獨立勞働協會、協力ニ依リ十一月五日直ニ社會民衆黨ノ結黨式ヲ挙ゲタリ。

無産政黨ハ以上左右兩黨ノ對立状態ヲ維持シ居タルガ、其ノ後日本勞働總同盟ヨリ分セラル。一派ト日本農民組合ヨリ歧レタル一派トハ合流シテ一政黨ヲ作レリ。此等ノ分テハ日本農民組合ガ評議會ニ接近シ右翼化スルヲ排斥ス。

モノト、總同盟が左翼派ノ擁護ニ對抗ス。徒ニ旗ヲ卷ケルトニテ滿セルモノトノ
結合ニテ左右中間派無産政黨ナリ。十月九日結黨式ヲ行ヒ日本^務農黨ト
稱ス。

右ノ外ニ日本農民組合ヲ脱黨シテ、大正十五年三月ニ組織ヲ形成セル右翼派ノ全日本
農民組合同盟ナレバ、同十月日本農民黨ト稱スル無産政黨ヲ組織セリ。
大正十五年末ニ、無産政黨ハ四派ノ對立トナル。即チ労働農民黨、社會民衆黨、
日本務農黨、日本農民黨此レナリ。

其後ノ形勢ハ冷モ、労働運動團體が離合集散ニタルガ如キ状態ヲ、無産黨トニ
現ハセルノ有様トナリ。各政黨間ニ分裂行ハレ、又別ニ新黨ヲ樹テスルモノアリ。
左翼團體ノ發展、共産黨事件ニ關聯シテ、無産政黨ニモ多難時代出現ニ
末タル。

昭和二年ハ左右西翼間ノ排撃抗争最モ識烈ヲ極ム。労働農民黨ハ右翼

派ヲ指シテ無産政黨ノ~~名~~階級ニテ資本家ト野合スルモト宣傳シ日本務農
黨ニ對シテハ階級的タリトシテ階級的態ハ^ル日^本和見主義ト嗤フ
更ニ失業手当最低賃銀ノ確立ハ時間労働制婦人労働者保護健康保
險法改正ノ法案ノ確立ヲ要求シ、昭和二年九月全國一着ノ「ストライキ」計畫ニ
テ未然ニ防ブル等、コトヲナス。又日本労働組合評議會ハ「マルクシズム」ニ立脚
セル團體ナルトハ既報シタルガ山川均氏一派ノ指導ヲ離レル後ニ福本和夫
氏ノ主張ニ共鳴シ福本ズムノ下ニ行動セリ。
此時ニ採リタル組合員ノ指導組織ト政治的闘争ノ転化方法等ハオニイター
ナシヨナルノ指導精神ナリト目サレタリ。
昭和三年ハ無産政黨ニ惠マラル年ナリト共ニ又不運ナリニ年ナリキ。同
年一月才九十四議會解散ナリ。二月二十日總選挙行ハルヤ無産政黨候
補者ノ蹶起スルモノ合計八十八名當選者實ニ八名得票数合計四十九萬

二十二年十一月ヲ獲得シテ 既成政黨ヲ啞然タラシメタリ 然ルニ二月十九日
井曉全國ニ府一道ニ十有餘縣ニ亘ッテ行ハレタル日本共產黨員一千有餘名
ノ檢舉ハ俗ニ三一五事件トモ稱アルガ其ノ波動トシテ四月十日 労働農民黨
及ビ其ノ支持団体ナル日本労働組合評議會 全日本無産青年同盟ニ對シ
治安警察法ニ抵触スルモトシテ解散ヲ命ゼラレ 昭和四年四月十六日(四一六事
件)ヲ三次共產黨檢舉アリシ爲メ 無産陣營特ニ左翼派ハ全滅ノ状
態ニ陥ル

左翼系ノ評議會日本交通總聯盟(自治會實現同盟ヲ除ク)東京守從
業員組合 関東電気労働組合 関西電気労働組合 日本俸給生活
者組合評議會等ハ 評議會ノ解散ニ依リ 中央機關ヲ失ヒ 戦線ニ動搖ヲ
生ズナル内ニモ 左翼ノ残體ヲ府ラントスルモノハ 昭和三年五月 関東地方協議
會準備會ヲ設キシ產業別合同ヲ原則トシテ 全國單一労働組合總聯合

ノ組織ヲ計畫セシメ七月創立大會實際ニ解散ヲ命ゼシ其後方針ヲ喪ヒ十月
下旬全國勞働組合協議會ヲ組織シテ九翼團體ノ全國的闘争主体基礎
團體トシテ協議會ノ運動ハ潜行的ニテ表面ニ出デザリキ次テ評議會一部ニテ
我國情ヲ無視シタルトニ反省シタル現實政策ニ立脚シタル合法派ハ昭和四年三月
関東全産業勞働組合ヲ組織シ七月全國的ニ聯合シテ全産業勞働組合全國
會議ヲ創立ス此ノ評議會系ニ團體ハ後々昭和五年ニ合同ヲ計畫セリ
解散後ノ勞働農民黨ハ大山郁夫細田兼光氏等ノ幹部派前衛黨主
義ト墾利友山川均籍侯津南雄諸氏ノ反幹部派大衆共同戦線黨ト
ハ確然トシテ分テ後者ハ昭和三年七月無産大衆黨ヲ樹立セリ前者ハ同年
十二月下旬勞働者農民黨ヲ組織シタルガ結黨式ヲ終ケル中途ニ解散ヲ命
ゼラレ

止ムテ十月二十日新タニ政治的自由獲得勞農同盟ヲ組織シテ新黨組織

極端に左傾したるものありしに、昭和四年三月、関東全産業労働組合の組織、七月、全国的に聯合して全産業労働組合全国會議を創立す。此の評議會系に團體は後々昭和五年に合同を計畫せり。解散後、労働農民黨は大山郁夫、細田兼光氏等、幹部派前衛黨主義と、墾利友、山川均、籍侯津南雄諸氏、反幹部派大衆共同戦線黨と、ハ確然として分ち、後者ハ昭和三年七月無産大衆黨を樹立せり。前者ハ同年十二月下旬労働者農民黨を組織シタルガ結黨式を終ケル中途ニ解散を命ぜられ、十月二十日新タニ政治的自由獲得勞農同盟を組織シテ新黨組織

準備ノ運動ヲ迷續セリ。

昭和四年四月日本勞働組合同盟ハ全國大會ニ於テ全無產政黨ト全勞働組合ノ即時無條件合同ヲ決議シ五月日本勞働組合總聯合又勞働組合ノ全國的統一ヲ決議シ七月左翼及中間派ニ四組合ノ代表集リ全國勞働組合同議準備會ヲ組織ス然ルニ總同盟又右翼團體参加セザルヲ準備會以上ニ進マズ無產政黨ハ昭和三年初頭ヨリ合同運動起リ日本勞農黨ハ社會民眾黨及勞働農民黨ヨリ合同申込ヲ受ケタルガ何レモ交渉成立スルニ至ラズ十二月ニ至リ日本勞農黨、無產大眾黨、日本農民黨、九州民衆黨、中部民眾黨、信州大眾黨、島根自由民眾黨ト合同シテ日本大眾黨ヲ組織ス即チ中間派結成ナリ然ルニ昭和四年福田狂次氏請黨運動ヲ起シ日本農民黨ハ脱退シ無產大眾黨分離シ日本大眾黨ニ殘レルモノハ日本勞農黨ト政地方政黨ノミトナリキ。

政治的自由獲得勞農同盟準備會ハ新黨樹立ニ付テ合法派非合法派ニ
分岐糾ヲ居タリシガ合法派ノ水谷長三郎氏先ヅ分離シ昭和四年一月京都
ニテ勞農大眾黨ヲ組織シ更ニ地方合法派ハ中國無産黨大和無産統一
黨、岩手無産黨、宮城大眾黨ヲ組織スルニ至ル、殘疊ヲ序レル人々ノ内、大山
細迫、上村、河上肇、大坂市議小岩井洋氏等ハ八月廿日新黨組織ヲ企
テタルガ非合法派ハ九月ヲ除名シテ八月十六日放逐シテ勞農同盟ト改稱スルニ
至ルニ九月等ハ十月結黨式ヲ奉ケ勞農黨ト稱フ、中央執行委員長大山郁
夫氏ニテ昭和五年ノ總選挙ニハ代議士ニ當選ス
總同盟即チ社會民衆黨ニハ訂起リ関西勞働團體タル関西同盟會分立
ニテ勞働組合全國同盟ヲ作り東京ニテハ宮崎龍介ハ一派脱退シテ東京
無産黨ヲ組織シ大阪ニテハ分裂シタル一派全國民衆黨ヲ組織セリ
其後昭和四年七月二十日ニ至リ日本大眾黨、全國民衆黨及ヒ各派ヨリ出テ

政治的自由獲得勞農同盟準備會ハ新黨樹立ニ付テ合法派非合法派ニ
分岐糾ヲ居タリシガ合法派ノ水谷長三郎氏先ヅ分離シ昭和四年一月京都
ニテ勞農大眾黨ヲ組織シ更ニ地方合法派ハ中國無産黨大和無産統一
黨、岩手無産黨、宮城大眾黨ヲ組織スルニ至ル、殘疊ヲ序レル人々ノ内、大山
細迫、上村、河上肇、大坂市議小岩井洋氏等ハ八月廿日新黨組織ヲ企
テタルガ非合法派ハ九月ヲ除名シテ八月十六日放逐シテ勞農同盟ト改稱スルニ
至ルニ九月等ハ十月結黨式ヲ奉ケ勞農黨ト稱フ、中央執行委員長大山郁
夫氏ニテ昭和五年ノ總選挙ニハ代議士ニ當選ス
總同盟即チ社會民衆黨ニハ訂起リ関西勞働團體タル関西同盟會分立
ニテ勞働組合全國同盟ヲ作り東京ニテハ宮崎龍介ハ一派脱退シテ東京
無産黨ヲ組織シ大阪ニテハ分裂シタル一派全國民衆黨ヲ組織セリ
其後昭和四年七月二十日ニ至リ日本大眾黨、全國民衆黨及ヒ各派ヨリ出テ

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is faint and difficult to read.

組織方ル無産政黨統一全國協議會ハ相合ニテ全國大衆黨ヲ組織ス
昭和四年末ニテ主ル無産政黨ハ社會民衆黨、全國大衆黨、勞農黨
ノ三派鼎立ナリト言フヲ得ルナリ

一 最近ノ労働運動ト無産政黨

昭和五年ト昭和六年以後、労働運動ハ從來ノ該運動ニ見ル特異性、
モノトナレリ。

不景氣、深刻ト社会思想ノ急激ナル变化ハ其ノ最大原因ナリ。尤翼ハ増々尤
翼化シ「古」ノ「新」ヲ「イ」ニ「タ」ナシヨナル等ノ宣傳機關ヲ以テ幾多ノ壓迫干涉ニ
屈ス。潜行的ニ發展シ右翼ハ右ハト進ミテ國家社会主義トシテ進ミ中間派
存在ハ無意味トナリテ、一切ハ兩極端ニ進ミシアルカ、如ク思ハル。労働運動モ尖鋭
化シ、兩派共ニ極端ナル行動ヲ取り、特ニ「テロリズム」ノ横行ハ知名ノ事ヲ失フ原因トナリ。
各方面各階級共ニ此ノ特異性ニ驚異ノ眼ヲ見張ルノミナリ。右翼團體ノ行動ハ殊
ニ注目ノ中トナレカ、觀ヲ生ズ。

昭和五年八月ニ至リ、労働黨内ニ解消運動起ル。大政友会聯合會内、
小岩井洋、赤松克麿氏ノモノハ、表面ニ出テタル最初ノモノニテ、労働黨解消

消同盟ヲ組織ス。此ニ對シ、飯石、豊中、安島、高行、小田、孝氏等反對シテ、
支持ノ態度ヲ取リ、正面衝突トナリテ、大阪市九條青年會館ニテ八月二十九日聯
合會擴大執行委員會ヲ開キ、解消派勝ケテ制ス。然ルニ、芳農、蘆本部ハ同
三十日、大山中央執行委員長ヲ中心トスル緊急常任委員會ヲ開キ、解消排撃
ニ決定シ、解消ヲ贊成シタル、細迫書記長ニ謝罪ヲ迫リ、要求ニ從ハズルモ、除名ヲモ
^意決セリ。此ノ結果、九月三日、解消派、小岩井、澤、赤松、五百磨、河野徹志、菅村
二郎氏等ヲ除名シ、曾細迫書記長ヲモ除名セ、服部峰太郎、西~~綱~~^楠太郎
氏等ハ自ラ脱黨セリ

問題ハ此ニテ時訖マリシモ、河上、肇、上村、進、神道、寛治氏等再ビ解消ノ意
ヲ明カシ、十月二十三日、除名トスル。

残留者大山一派ハ右翼化シタル、芳農、蘆、殘骸トナレリ。一方無産各黨ニハ、合
連動ノ氣勢具體化シテ、有リ、十月十二日、社民黨ハ、戰線統一ノ意味ヲ合同ノ意

有_レト_ラ發表ス。社民黨ノ態度明瞭トナレ_ル。全國大衆黨ニテモ十月二十九日
岸任執行委員會ヲ開キ社民、勞農、西黨トノ合同ヲ提唱セ_ル。

十二月廿日新潟縣ニ崖合同促進同盟主催トシ東京協調會館ニ全國代表
者懇談會ヲ開キ三崖合同促進全國協議會設置ナル。

秋勢斯ク、如ク合同ノ機運ニ向ヒツ、有_リニモ社民黨ハ崖_ノ合同ヲ贊成シ居_ルトシ
依然トシテ態度曖昧ニシテ寧_モ合同反對ノ傾キ有_リ。爲_シニ社民黨外部ノ合同分子、
社會民衆黨ニ崖合同實現同盟ヲ組織シタル程ナ_リ。斯_レニ絡_シ、内ニ十月四日總
同盟全國大會ノ席上鈴木文治氏ハ總同盟會長許件ヲ聲明ス_ル等、事態ハ
混乱ス_ルニ。勞農黨ノ方面ニモ日本勞働組合總評議會生_レ純向上會ハ
昭和六年日本勞働總聯盟ト改稱ス。又右翼中間兩派ノ戰線統一問題惹起シ
海員組合提唱依_リ日本勞働俱樂部結成ヲ見_ル等、傍系_的ノ結成運動モ行

ハ_ル。

無産黨ニ課スレシ此ノ重大問題ニ後々幾多ノ難関ヲ経テ兎モ角モ順次歩ミ寄り

昭和六年七月廿日東京協調會館ヲ協議ノ結果全國大衆黨ト勞農黨及

社民黨ノ一部ハ完全ニ結合シ全國勞農大衆黨組織セラル

結成セルノ大衆系百三十勞農系五十一社民合同派系二十七ナリ書記長麻生

久氏ニテ事實上黨首ノ役ヲ努ム

此ニテ我國ノ無産黨ハ昭和六年ニ於テニラニ統一セラレタル譯ナリ

社會民衆黨ハ大正十五年十二月ノ結黨ニシテ黨首安部磯雄書記長赤松

克麿氏等支持團體ハ勞働總同盟官業勞働總同盟工人俱樂部全國

勞農大衆黨ハ昭和六年七月結黨書記長麻生久顧問松谷吳二郎

松山元次郎支持團體ハ全國勞働組合同盟勞働組合總聯合日本勞働組

合總評議會等ナリ

勞働團體ガ聯合シ無産政黨ハ合同スルコトハ社會情勢ガ個々ニ獨立ニテ存在

スルヲ得ザル程ニ宥迫セルガ爲メナリ。

然ルニ如何ニ合同ニ聯合スルモ 既ニ我國ノ如キ資本主義國家ニ於テ資本團體ガ
打開ノ途ナキ程ニ薄弱トナリ居リ 中小工業者ヲ夕疲弊シ 無産階級ノ如キ
不況ノ表ニ漂泊シツアル際ニ 無産階級ヲ基礎團體トスル 無産黨ノ完全ナル
存在ハ望ムヘラス 何等ノ方向ニ轉換策ヲ講スルニ非ラズトハ 存在ノ意味ヲ没却スルノ
状態ニ陥ルハ 必然ナリ 最近ノ地方選挙及ヒ衆議院議員總選挙ニ於テハ
此ノ結果ハ 現レ望ミ失ヘル 無産者ハ 無産黨ヲ支持スルニ徒ニ 落働等議
ノ勸發スルニミテ 無産者代表ノ政治場裡ニ 現ハシトスルモノハ 敗戦又敗戦ニテ
無産陣營惨トシテ 聲無シ 茲ニ於テ 比較的穩健ニシテ 漸進的改善ヲ標
誌トセル 社會民衆黨ノ如ク 國家主義若シカハ 「ファシズム」ノ方向ニ 合流セトス
唯ダ彼等ノ戦法ハ 闘争的ナルガ爲メニ 白色「テロ」運動ノ起リタルハ 遺憾トス
右ノ例ハ 外國ニモ 有リ 墺大利ノ祖國防衛團ガ 社會民主黨ト握手シテ

「フアリスト」支配ヲ確立セルノ状態ニ髣髴タルモノ有リ。昭和六年十月社會民主黨ノ赤松克麿氏ガ論文ヲ公シ「社會主義的ニ日本國民經濟ヲ建設スルハ種々ナル條件必要ナルガ最大ノ條件ハ生産資源ノ確保ナリ。滿蒙ノ權益ハ日本大衆ノ生存權ニ必要歟スカラザルモトスラバ帝國主義的侵略ノ產物タルトシ拘クスルニテ確保スベキ正當性アルヲ主張スモノナリ。」ト社會「フアリスト」ニ共鳴シ居ルハ明カニ社會民主黨ノ方向轉化的ニ更生策ナルトヲ示スモノナリ。

果テ哉。昭和七年四月十五日赤松一派ハ社會民主黨ヲ脱黨シ同黨ハ分裂セリ。赤松一派ハ直ニ國家社會主義新黨樹立準備會ヲ創立シ日本農民組合又ハ總同盟配下ナリシ遊友同志會ハ此ガ支持ニ参加セリ。

松岡、片山氏等ノ残留組ハ及「フアリスト」ニテ全國勞農大衆黨トノ合同ヲ策ス。全國勞農大衆黨ニモ動搖起ル。全國勞働組合同盟ノ幹部今村望月、外三氏ハ「フアリスト」ニテ輒向ノ意見書ヲ三月十日發表ス。五月二日組合同盟

ノ脱黨トナリ、七月赤松氏等ノ國家社會主義新黨準備會合同セリ。斯クテ
生々モハ國民社會黨ナリ。

左翼系ニ屬タルシテ舊勞農黨系名日本勞働組合總評議會、關西
地方評議會中一部ハ國家社會主義ヲ指導精神トスルコトニ決シ、飯石
小田、官脇、矢立、大月氏等發頭人トナリ、三月二十六日社會自由黨ヲ創立ス
此外一月二十五日ハ下中弥三郎氏主宰ノ下ニ總聯合、小作人總同盟、日本農
民組合等ハ相提携シテ日本國民社會黨ヲ組織セリ。

日本農民組合、全部ナラスニテ、個人的ニ加入セルモノナルガ要スルニ國家社會主義ヲ
奉ズルモノニテ、建國ノ本義ニ基ヅキ、擷取無キ新日本ノ建設ヲ期スト誓言シ居レリ。
九月十九日國民社會黨ト日本國民社會黨トハ合同シテ國民日本黨ナル新黨
結成ヲ決議セリ。

更ニ「フアン」ヨリ學術的ニ理論化サトスル爲メノ聯盟生ズ、日本國家社會

主義同盟ニテ四月五日大隈會館ニ會ス日本國民社會黨ノ下中孫三郎
社民黨、島中雄三、行地社、大川周明諸氏顧問トシ、政治的色彩ヲ放ル
各大學專門學校生徒ヲ糾合シタル日本主義學生聯盟モ全國的統一機關ト
ニテ創立スル

此ヲ見ルニ無産黨ノ大部分、フア、シヨ化シ國家社會主義ニ走レルナリ。
有本生産黨ハ頭山滿、内田良平兩氏主席ノモノナルガ資本主義的ニ非ズ
闘争精神ハ無産黨ニ近ク二月三日、選挙ニ候補者ヲ二名ヲ出シタリ。
以上ハ今日ニテノ労働運動團體ヲ基礎トスル無産政黨ノ略述ナリ。

一、労働組合下労働争議

労働争議件数、年々増加、其ノ原因ハ労働組合團體が発達セリト、
 経済状況ノ年々深刻化スルニ依ルモノナリ、最近統計ニ依リバ

年次	労働争議 總数		罷業		怠業		工場閉鎖	
	件数	参加員数	件数	参加員数	件数	参加員数	件数	参加員数
昭和元年	四九五	六七、三三四	四六九	六三、六四六	二六	三、五九〇		
二年	三八三	四六、六七二	三四六	四三、六九四	一七	二、九四	一〇	八、〇九
三年	三九三	四三、三三七	三一九	三九、八三二	四〇	八、五三	二四	一、二〇一
四年	五七一	七二、八一	四九〇	五九、九五六	五三	一一、二二〇	二八	五、二二五

右、数字ハ一般産業労働者ニ関スルモノナルガ農民組合ニ関スル小作争議モ
 相当ニ多シ

年次	争議件数	参加人員			関係地ノ種類及面積 (單位ハヘクタール也)		
		地主	小作人	畑	田	其他	計
昭和元年	二、七一三	三九、四三七	一五、一六三	四七七、八八九	四〇、九四〇	九四、〇〇〇	
〃二年	二、〇五二	二四、一三六	九、三三六	五八三、五五六	一七、〇七一	一六六、五九	
〃三年	一、八六六	一九、四七四	七五、一三六	三七三、九四二	四三五	四、九二	
〃四年	二、四三四	二三、五〇五	八一、九九八	七三七、四四七	二七六	五、三三〇	
〃五年	二、四七八	一四、一五九	五八、五六五	一〇、三七四	八、九三二	〇、四三九	

我國ニ於テ主要勞働組合ハ本文ニ大體述べタルガ一覽表トスルカ如キ状態ニシテ近年ニ至リ発達セルヲ見ルヲ得

— 全國勞働組合

- 神奈川縣聯合會
- 京都聯合會
- 大阪聯合會
- 阪神地方聯合會
- 關西尼崎聯合會
- 神戶地方聯合會
- 播州地方聯合會
- 中國聯合會

合會、高知縣聯合會、九州聯合會、北海道聯合會

一 日本勞働組合總聯合會

關東聯合會、神奈川縣聯合會、關西聯合會、大阪聯合會、神戶聯合會

一 日本勞働組合總聯合會

關東勞働同盟會、關西同盟、大阪聯合會、尼崎聯合會、難聯合會

一 官業勞働總同盟

中國聯合會

一 官業勞働總同盟

一 海軍勞働組合聯盟

一 日本海員組合

一 日本勞働總聯盟

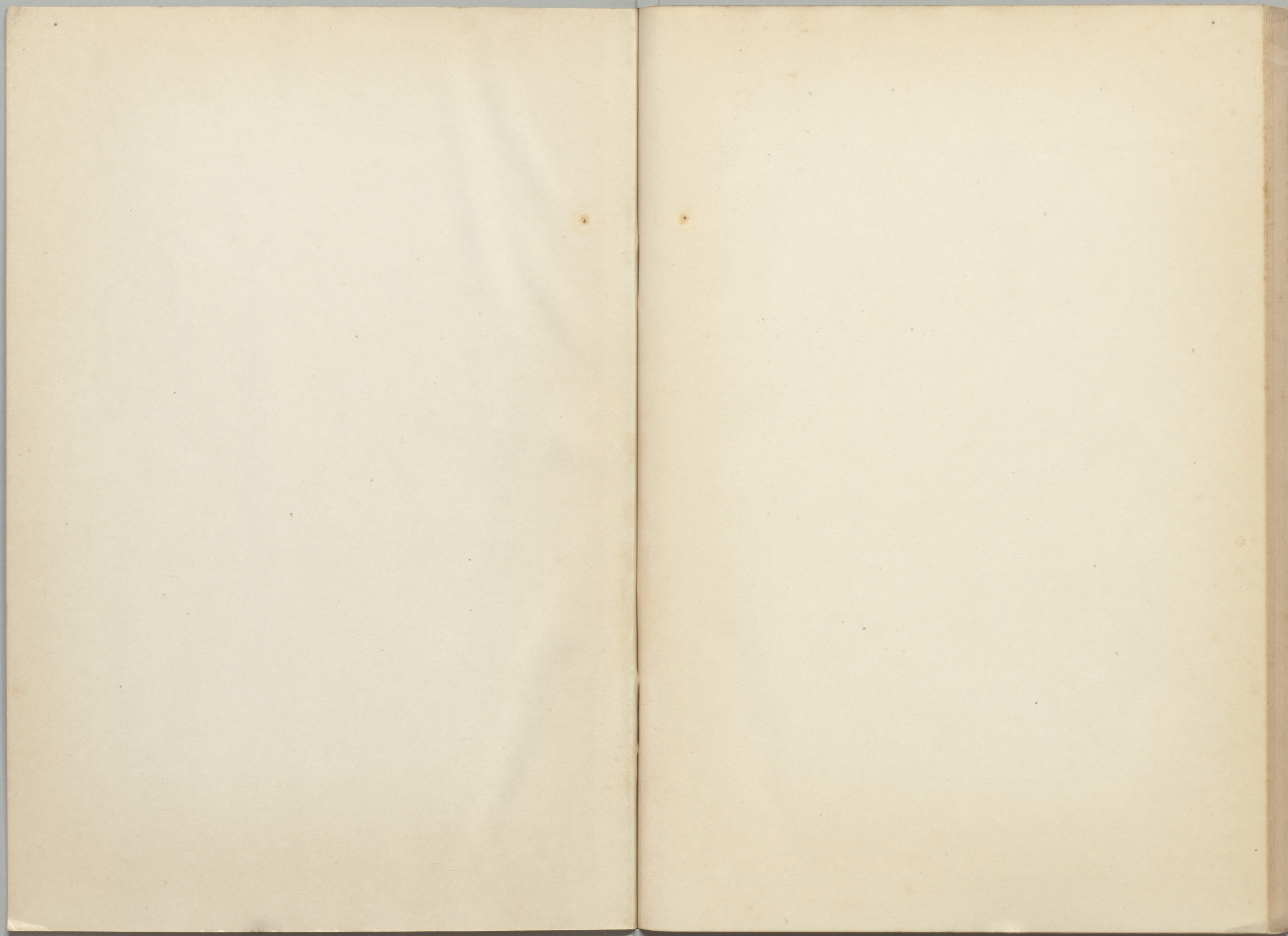
一、海員協會

一、全國農民組合

一、全日本農民組合

一、日本農民組合總同盟

一、台灣農民組合



群馬県立図書館



0706534-5